

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 \_\_\_\_\_ (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 \_\_\_\_\_ )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 5 7 3 - 0 0 2 8 \_\_\_\_\_

枚方市大垣内町 3 - 1 6 - 1 \_\_\_\_\_

E-mail s-nakamura@hirakata.osaka-c.ed.jp \_\_\_\_\_

Website http://www.osaka-c.ed.jp/hirakata \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 391 名 女子 600 名 合計 991 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 3 0 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「国際交流の推進」「伝統文化の継承」を活動テーマとして、ESD を地球環境と人類の調和と捉え、ESD の実践を通してパートナーシップを育成を目標としている。

具体的には、国際交流、伝統文化の学習を柱に、①授業の中でこれらを深める活動、②国際交流に係わる教育、③伝統文化の学習、具体的にはアイの栽培と藍染め、コウゾの栽培と紙漉きの実習に係わる学習を行った。

### ① 授業の内容に係わる活動

現代社会の授業の中で、現在の地球に関する諸問題を学習し、知識を深め、自分がこれからそれにどのようにかかわっていけるかという学習をした。

また総合学習の時間ではSDGs についての調べ学習を行い、「今の日本はジェンダー平等が実現されているか、されていないならどのような改善策があるか」というグループ討論を行い、さらに夏休みの課題として「貧困をなくすためにはどのような取り組みが考えられるか」というテーマでのレポートの提出を課した。

三年生の異文化理解の授業では卒業生でシリアの難民問題を研究している人物を招請して、難民問題に関する講演をお願いした。

## ② 国際交流にかかわること

本校には普通科以外に国際教養科という学科が併設されており、国際社会に関する理解を深め、国際協力を推進する担い手を育成することを目的に教育活動に取り組んでいる。カリキュラム的には英語の単位数が多く、そのなかに実用的な英語を学ぶ時間を設定している。それ以外にも第二外国語の時間、異文化理解の時間をカリキュラムの中に組み込み、教育の実効を上げようと努力しているところである。もちろん普通科の生徒にもこの理念を生かした教育を実施している。

具体的なとりくみは本校独自のオーストラリア語学滞在研修、英語校内暗唱、弁論大会、海外の学校の日本単位滞在受け入れ、留学生の受け入れなど、多彩である。これらは国際教養科の生徒のみならず、普通科の生徒にもオープンにされている。

修学旅行はずっと海外へ行っているのであるが、ここ数年は台湾を訪問し、現地の学校と交流を行い、相互理解を深めた。前年度はその学校が来日し、一週間本校で授業を受けた。日本語の授業に加え、一般の授業にも参加してもらい、放課後は剣道、華道、茶道など日本文化を感じる部活に参加してもらった。また藍染め体験と紙すきの体験をしてもらった。来年度、同校は再び訪問してくれる予定になっている。

## ② 伝統文化の学習

数年前から本校は日本文化の継承に着目し、日本の伝統的な紙の製造に取り組んでいる。昨年度誕生した生物飼育部の活動として、校内で和紙の原料となるコウゾ、藍染の原料となるアイの栽培を実施し、その成果を発表してきた。

文化祭のとき、来校された方に藍染体験をしていただき、白いハンカチが劇的に青く染まるのを体験していただいた。秋には香港の学校の生徒 30 名ほどが来校してくれたのであるが、そのときにも藍染めをしてもらい、出来上がった染物を持って帰ってもらった。

日本史の教科書には「アイやコウゾが栽培され、それが商品作物となって経済の発展に大きな意味を持った」、と記述されているが、その現物を自分たちで栽培し、コウゾの皮はぎなど非常に煩雑な工程を自分たちで体験することによって、日本の伝統文化について深い学びをし、それを継承していくことになる。そしてさらにそれを生んだ日本の風土についてより深く考えるきっかけにもなっていくと考える。

さらにこれを高校生の活動として、いろいろな形で発信できればより活動が深まり、ましてや外国に発信できれば、大変意義深いことであると考えている。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(社会の中での自分の役割を考える力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

難民についての授業の手引き (国連 UNHCR 協会) 世界一大きな授業 2017 (JNNE)
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合学習の時間実施に関して、本校ではこの総合的学習の時間の授業のポイントの一つを生徒個々人と社会との関係、かかわりを重視し、今人類が直面している問題にどのように対応していくべきかを考えることにおいている。

それを考える具体的な教材としてSGDsを取り上げ、持続可能な社会とは何か、それを実現するために人類にどのような努力が求められているかを考えるという指導内容を定めた。指導方法についても事前に担当者間で十分に打ち合わせをし、動画、PPを使用するなど指導方法の工夫をし、教育効果が上がるように努力しているところである。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教員側の組織としてはASPネット委員会を設置している。全教員の意識の深めることが目標である。

生徒は生徒会、生物飼育部、書道部、有志などの生徒に呼びかけ、国際交流、伝統文化学習にできるだけ深く関与してもらった。彼らにとっても新しい活動や価値観に触れることによって、いろいろなことを考えるきっかけを得て、徐々に積極的に参加してくれるようになったという意味で大きな進歩であったと思う。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の評価としては、「学校教育自己診断」を実施し、そのアンケート項目のなかに「国際交流は盛んであるか」、「総合学習の時間は役に立っているか」という項目があり、教員、生徒、保護者に回答してもらっている。ユネスコスクールの活動に関係するところでは、かなり高い評価を得ている。ただユネスコスクールの理念が十分に浸透しているとは残念ながらいいがたく、これからの大きな課題であろうと思われる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

P T A の会合のときに、活動の内容をできるだけ紹介するようにしている。また P T A 新聞、生徒会新聞、メールマガジン、HP のブログなどにより詳しい活動の様子を紹介している。生物飼育部の活動の様子は、新聞、TV などにも紹介された。効果としてはこれにより関心が高まり、活動に対して好意的な声が増え、学校としての取り組みを、支えていこうとしてくださる声が大きくなったと感じている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

申し訳ありませんが、これについては記述する内容がありません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

近隣のユネスコスクールと、各校がどのような取り組みを実施しているか、協力して行えることはないかということを生徒会中心にメール、手紙などで交流した。また生徒会、有志の生徒たちによる交流会を実施することを現在計画している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

総合学習や現代社会の授業の中で、国際社会や地球全体の問題、SDGs などを取り上げたことによって、生徒の中に世界の諸問題を他人ごとではなく、自分自身の問題だととらえ、社会に積極的に関わっていかうとする姿勢が見えるようになった。自分の成長は社会とのつながりのなかで生まれるのだ、という観点を持つことができる生徒が多くなったと感じている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- 1 総合学習、および現代社会の時間で「生徒と社会がどのようにつながっていけばいいか」ということをより深く考えさせたい。具体的には「難民問題」を取り上げ、世界の現状の理解と自分たちが今できることを考えてもらいたい。
- 2 国際交流をいっそう深化させたい。次年度は修学旅行で学校交流を行った台湾の学校が来校してくれる予定であり、書道、藍染め、紙漉きなどの伝統的文化の紹介を行いたい。修学旅行、オーストラリア滞在研修においても、現地の高校生徒の交流を今より活発に行い、相互理解を深められれば、と考えている。
- 3 伝統的文化の紹介  
コウゾ、アイの栽培を行い、藍染め、紙すきをひろめたい。次年度は特に本校の生徒が講師となって、近隣の保育所、小学校などと連携させていただき、これらの方法を今以上に洗練したものとし、それを広めていきたいとおもっている。